

家庭、園・学校が ともに育ち合うための手引き

生活習慣・学習習慣・食育研究部会がまとめた「家庭、園・学校がともに育ち合うための手引き」から、小学校5年生（11歳）の部分を紹介しつゝ、家庭教育の参考にしてください。

目指す子どもの姿と働きかけ 小学校5年生（11歳）

生活習慣 社会の常識に合わせて行動する児童



進んであいさつや返事、ありがとう、ごめんなさいなど適宜使う。
家庭や学校における自分の役割に責任をもって取り組む。
公共物を大切に扱う。

学習習慣 課題に対してねばり強く取り組む児童

課題意識をもって進んで調べる。
図書・辞書・パソコンを活用して学習する。
自分の思いをもち、相手に伝えるように話す。



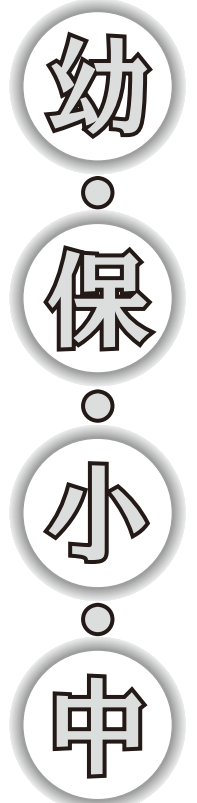
食育 日常の食事に関心をもち、バランスの取れた食事の大切さを理解している児童



栄養バランスのよい食べ方が分かり、自分の食事の改善点が分かる。
朝食の大切さを理解して食べる。
食事作りに関心をもち、参加する。
地場産物の米や野菜のことが分かる。
肥満・生活習慣病と食の関係が分かる。

＝全国へ発信＝

一貫教育プロジェクト



家庭からの働きかけ

家族がお互いにあいさつする習慣をつくり、子どもと家庭のきまりについて話し合う時間をもつ。

親が進んで学校や地域の活動に関心をもち、参加する。
自分の物やみんなで使う物を大切に使う。



調べようとする子どもに対して、保護者が関心を示し支援する。

子どもの疑問に対して、辞書などを活用するように勧める。
子どもとの対話、会話を多くする。



よくかんで何でも好き嫌いなく食べるようにする。
朝食を毎日しっかりと食べさせる。
食事作りの手伝いをさせる。
地域の食材を使って食事を作る。
規則正しい食生活を心掛ける。



学校からの働きかけ

あいさつ運動などの工夫を通して、誰にでも進んであいさつができるようにさせる。

生活目標を見直し、意識化を図る。
教室環境を整え、みんなの物を大事に使う。



生活体験や興味関心を生かした調べ学習、問題解決学習などの支援をする。

図書館やパソコンを利用した授業の充実を図る。
話し合い活動の充実を図る。



自分の食生活について振り返らせる。
朝食の役割と大切さを理解させる。
野菜の調理方法について理解させ、簡単な野菜炒めができるようにさせる。

給食の献立の中で、地場産物を知らせる。
健康と栄養について考えさせる。

